遠くて近いアイルランドのお話

北向 慎 （2004～2008 年 3 月 博士後期課程）

10 年前に芳香への執筆依頼をいただき、その時は私がハマっているアイルランド音楽について書いてみました。再び書かせていただく機会をいただきましたが、今回は話の幅を広げ、アイルランドという国と日本との関係がどう変わったか、私の主観で思いつくままに書いてみます。まとめてしまうと、この 10 年でお互いより近くなり、アイルランドの文化がこっそりと日本にも浸透しつつあるというのが私の個人的な感想です。読者の皆さんにとってなじみが薄いかもしれない世界、ご堪能ください。

その前に、マクラ代わりに私のお仕事について触れることにします。現在は某試薬会社に勤めており、主にデスクワークをしていますが、薬学会年会などの学会に当社の製品を宣伝する展示員として出向くことがあります。お陰様で、学生時代にお世話になった先生方をはじめ、先輩後輩の皆さんとよくお会いします。中には、展示ブースの常連さんとなってくれた方もいるほどです。展示を通して、北大薬学部 OBOG の活躍ぶりがわかりますし、皆さんのおかげで私も展示の仕事がしやすいです(笑)。

読者の方には学会に参加する方も多いと思います。発表や聴講がメインなのはもちろんですが、気分転換に企業展示に行かれるといいことがたくさんあります。多くの情報と、ちょっとした販促品を用意しているところもあります。学生さんの中には、展示で手に入れた情報をゼミの学会報告で発表した人もいるのだとか。そういうお話を聞くと、私もやりがいを感じます。というわけで、学会などに参加される際にはお仲間をお誘いの上企業展示に遊びに来てください。企業アカデミア問わず、どなたでも歓迎です。

さて本題のアイルランド。イギリスの西隣にある島国で、面積と人口は北海道と同じくらいです。日本からの直通の飛行機はなく、ヨーロッパの中でも行きにくい国かもしれません。北海道が誇るローカル番組「水曜どうでしょう」でヨーロッパ完全制覇という企画がありましたが、遠いという理由で訪れるのが後回しにされたくらいです。また、人によっては「アイルランドって物騒な国じゃなかったっけ？」と思う方もいるはず。確かにそんな時期もありましたし、私も昔はそのイメージが刷り込まれていました。しかし今はとても安全な国になり、安心して旅できるようになりました。

ではなぜ私がアイルランドにハマるようになったかというと、そのきっかけは音楽でした。私の場合は Final Fantasy IV というゲームの音楽をアレンジした CD から始まったという、ややイレギュラーな入口でしたが、触れたことのない異国の楽器の音色やメロディを聴いて、衝撃を受けてすぐに虜になったことは今も記憶に新しいです。しばらくして自分もアイルランド音楽、特に伝統音楽を弾くようになり、ついには本場の伝統音楽を求めてアイルランドに 6 回行ってきました。

アイルランド音楽はダンス音楽と歌に大雑把に分けられ、ダンス曲は速いリズムとスウィングから繰り広げられる疾走感や寂寥感が特徴だと思います。また、歌はゆったりとした美しい旋律のものもあれば、飲んだくれが出てきたりするような明るいパブソング、そして戦争にまつわる曲もあり、題材は幅広いです。例えばダニー・ボーイやサリー・ガーデン、庭の千草は日本でもよく知られていると思います。それもあってか、アイルランド音楽を聴いて懐かしさを感じる人も少なくないのだとか。そして、アイルランド音楽が日本人を魅了しだしたきっかけの一つに、映画「タイタニック」が挙げられるでしょう。三等客室の乗客、いわゆる貧しいアイルランド移民たちが繰り広げていたパーティーがあって、主人公が「本物のパーティーを見せてやる」といってヒロインを連れて行ったシーンが印象的ですが、あそこで流れていたのがアイルランド音楽です。おそらく、「なんだあの音楽は」と思った日本人も多いことでしょう。

最近だと、日本人がアイルランド音楽と聞いて連想するのは「無印良品で流れている音楽」なのかなと思います。私たちも、この音楽を説明するのに結構使っています。無印良品では北欧やハワイの音楽のように、別の国や地域の民族音楽を収録した CD も多く出しているのですが、なぜかアイルランド音楽が無印良品の店舗でよく流れているらしいです。また、私の守備範囲外にはなりますが、アイルランドはロック音楽もとても盛んです。代表的なバンドといえば U2 が挙げられ、数年前にも日本で大きなライブがありまし

た。

この国をよく知るようになってからしばらく経ちますが、この 10 年で感じたのは、日本にとってアイルランド音楽やアイルランドそのものがどんどん身近になっていることです。まず、この音楽が若い世代、特に大学生の間で広まるようになりました。特にパンデミック前は、関東だけでなく地方の大学でもアイルランド音楽やダンスのサークルが設立されました。パンデミックによって途絶えたサークルもあるようですが、存続しているサークルもありますし、パンデミック後に発足したサークルもあります。そしてなんと北大にもサークルができました。北大ケルト音楽研究会、略して「ほっける」です。ロゴは真ホッケだそうです。皆さんも後輩の頑張りを注目していただきたいです。ぜひ長く続けてもらって、いつか私と遊んでもらいたいものです。さて、大学生の中には、卒業後も演奏やダンスを続けている人もいます。また、彼ら若い世代の演奏のレベルもとても高いですし、現地で学んだり、向こうの大学で伝統音楽を専攻して学位をとったりした人も結構います。さらには、結婚して親になった人たちもいます。別の見方をすれば、お腹の中にいる頃からこの音楽を聴いている日本人が何人も生まれてきています。その子たちがアイルランド音楽やダンスをするかはわかりませんが、アイルランドの文化が日本に根付きやすくなる下地が形成されつつあるといえるでしょう。

また、現地からアイルランドのミュージシャンやダンサーが日本に来て、音楽やダンスを教えてくれる機会も増えました。となると、わざわざアイルランドに行かなくても、ハイレベルな演奏やダンスが日本にいながら楽しめるようになったといっても過言ではありません。日本人の演奏のレベルが上がっていることの証左といえるのは、昨年の現地での音楽のコンペティションでしょう。日本人の女の子が、並み居る現地の同世代の子たちと混ざって競い、見事 1 位を獲りました。つまりは世界一なわけです。例えるなら、世界スピーチコンテストでネイティブスピーカーが居並ぶ中でノンネイティブが優勝する、それくらい難しく、そして快挙だと思います。

ここ数年で日本人がアイルランドをより身近に感じるようになったきっかけの一つが、2019 年に日本で開催された、ラグビーワールドカップかなと思います。ラグビーのアイルランド代表は世界トップランカーの一角で、予選で日本と対戦することになりました。私も仕事の合間に見ていましたが、結果日本が勝ち、見事ジャイアントキリングを果たしました。この試合を通して、アイルランドのことを知らなかった日本人も、この国のことを知るようになったことでしょう。ちなみに、アイルランド代表のエンブレムは 3 枚のシャムロックをモチーフにしていますが、日本人ならあれを見るとサザエさんの髪型を思い出すかもしれません。

2 月になると、100 円ショップで緑色のグッズが売られだすのを見たことがある方もいるかもしれません。あれはアイルランドの最も大きなイベントの一つ、St. Patrick's day にちなんだグッズです。詳しく書くと長くなるので、3 月 17 日に行われるアイルランド最大のお祭りという認識で問題ないですが、これ関連のイベントがここ 10 年で日本のあちこちで行われるようになりました。中でも東京のイベント、そしてパレードは数万人が訪れると聞きました。なんと、東京のパレードが世界で最も素晴らしいパレードとして受賞したこともあります。ちなみにこのパレードは実は札幌でも行われています。それくらい、アイルランドの文化が日本にも浸透しつつあるようです。

大阪・関西万博 2025 が閉幕しましたが、アイルランド館も人気を集めた場所の一つと聞きました。もちろん他の国のパビリオンも素晴らしいのですが、本国から多くのミュージシャンやダンサーが毎日のようにパフォーマンスを繰り広げる豪華っぷりとのことでした。さらには、万博の外でも彼らがアイリッシュパブなどで弾き足りんぞといわんばかりにセッション（みんなで一緒に弾くこと）をしまくっていたようです。あいにく私は行けませんでしたが、SNS などで楽しさのおこぼれをもらって雰囲気を味わっています。

今年秋から始まった NHK 連続テレビ小説「ばけばけ」は、小泉八雲とその妻がモデルになっていそうです。小泉八雲は元の名をパトリック・ラフカディオ・ハーンといい、アイルランド人の血をひいた作家で、「怪談」が代表作です。そんなわけで、アイルランド界隈はこの国をさらに知ってもらおうと盛り上がっているようです。実際、彼が過ごした島根県松江市は、その縁で古くからアイルランドとの交流があるそうです。

少し前に、X（旧 twitter）で「YouTube での自衛隊の CM でアイルランド音楽が流れている」という情報をキャッチしました。半信半疑でしたが、その CM がたまたま流れてきてびっくりしました。CM は「Why?自衛隊」で締められていましたが、私からしたらアイルランド音楽を使っていることが Why?自衛隊でした(笑)。幹部もしくは宣伝部隊の中に、この音楽にハマった人がいるかもしれません。

思いつくままに長々と書いてしまったこの講釈もそ

ろそろお開きにしたいと思います。冒頭に書いたように、結局言いたかったことは、アイルランドの文化が少しずつ日本に浸透しているということです。少なくとも、この浸透ぶりは 10 年前の私は想像できませんでした。そして 10 年後、アイルランドの文化はより広く、そしてより深く浸透しているかもしれません。その中で、解釈違いによって文化が変質する可能性も出るでしょう。ですが、よその文化をお借りして使わせてもらって楽しんでいることは、世代に関係なく心に留めておいてほしいなと思っています。皆さんも、テレビや CM、もしくはネットやふと立ち寄ったイベントなど、必ずどこかでアイルランドの文化に無意識に触れているかもしれないですよということで、この文章を締めさせていただきます。

写真１　日本で演奏されているアイルランド音楽

写真２　アイルランドの世界遺産、Newgrange

同窓会 HP：2025 年 12 月 5 日公開